

「キマロキ」が見られる全国唯一の博物館
北海道 名寄市 **名寄市北国博物館**



北海道名寄市字緑丘222 ●開館時間:9:00~17:00※入館は16時30分までです。
●休館日:毎週月曜日、年末年始 ●観覧料:小学生・中学生以下 無料、高校生以上 200円
※キマロキについては4月下旬~10月下旬までの展示(屋外展示のため無料で見られます)
☎01654-3-2575 ㊟http://www.city.nayoro.lg.jp/section/museum/

- キ 59601** 形式:9600形蒸気機関車 車号:59601 製造年:大正10年
- マ 911** 形式:キ900形 かき寄せ式雪かき車 車号:キ911 製造年:昭和13年
国産のかき寄せ式雪かき車として初めて制作されたもの。回転式雪かき車との組み合わせは画期的な除雪方式として世界的にも有名。
- オ 604** 形式:キ620形 回転式雪かき車 車号:キ604 製造年:昭和14年
機関車と同じようなボイラーを搭載し、その動力で前にある大きな羽を回転させて雪を飛ばす雪かき車。
- キ D51398** 形式:D51形 蒸気機関車 車号:D51398 製造年:昭和15年
- 最後尾(車掌車)** 形式:ヨ3500形 緩急車 車号:ヨ4456 製造年:昭和29年

何かの呪文のような響きの「キマロキ」。これは、北海道や東北地方などの豪雪地帯で活躍した線路の雪かきのための特別な「排雪列車」の呼び名です。機関車、マックレー車、ロータリー車、機関車の頭文字を取って「キマロキ」と呼ばれていました。多いうきは5mを超える壁のように線路の両側にたまる雪を崩して集めるのがマックレー車、マックレー車が集めた雪を線路から遠くへ飛ばすのがロータリー車。それぞれをけん引する、押すのが2台の機関車の役目でした。そして車掌車が連結された5両編成、10名以上が乗って作業をしたそうです。冬の厳しい北海道では、昭和の中期までは道路網がざい弱で、鉄道が雪で閉ざされると、生活物資が運ばず人々の暮らしに大きな影響が出ました。一面の雪の中を大きな音と雪煙を上げながら進むキマロキが駅に到着すると、沿線の方々からは歓声が沸き上がったそうです。もうひとつの交流自治体である新潟県小千谷市を通る上越線でも、かつてキマロキ編成が活躍していました。

このキマロキが保存されているのは全国でも名寄市の北国博物館だけです。夏の旅行の目的地に、選んでみてはいかがでしょうか。



キ 機関車 | マ マックレー車 | オ ロータリー車 | キ 機関車

4月1日、僕は福島のお友達に会うため、初めて常磐線に乗った。目指す先は南相馬。上野駅から2時間ほどで福島に入ると、太平洋の穏やかな海が迎えてくれた。電車で揺られながら景色を眺めていると、代行バスの乗り換えの車内アナウンスが流れてきた。これから先は津波と原発事故による避難指示区域。バスに乗り換え、国道6号線を北へ、北へ。ふと海のはうに目をやれば、福島第一原子力発電所の排気筒が見えてくる。今も、常磐線は不通のまま。この場所では電車が走る音は聞こえない。6年ぶりに浪江駅と小高駅(南相馬市小高区)間が開通したこの日、浪江駅は開通を祝う式典が行われ、笑顔がふちれていた。その横では開通に反対するデモも行われている。人々の気持ちは必ずしも同じとは限らない。そこには様々な思いが交錯している。

僕は浪江駅から再び常磐線に乗り、

中央線ライダー
今日は常磐線日和 ~Joban Days

南相馬の原ノ町駅へ向かいた。途中、隣の席にいたおばあちゃんが話しかけてくれた。「どこから来たんだ? あんた東京の人だねえか?」「はい、杉並区から来ました!」「おい、こよ come! come! ちやうど、あー。ありがとね」と僕を歓迎してくれた。震災当時の話や杉並からの支援への感謝を伝えてくれた。別れ際、おばあちゃんは袋いっぱいの給をくれた。手を振って笑顔で見送ってくれた。その表情はなんとも優しく温かかった。

南相馬に入り、小高駅に近付くと、景色も変わってくる。駅前のカフェには人が集い、理髪店のサインボードが回る。町は彩っていた。そこには復興に向けて前進する人々の姿があった。

もうすぐ大切な友達が待っている。常磐線にはさまざまな物語がある。あなたにつながるこの電車。今日もいろいろな人の想いを乗せて走っている。

そう、今日は常磐線日和。

福島県 南相馬市 **南相馬市博物館**

常磐線に乗って行こう!

南相馬市博物館の敷地内に野外展示されている蒸気機関車C50形103号機は、1945年(昭和20年)から1970年まで、人々の思いを乗せて走り続けていた。同形が現存しているのは国内で6両のみ。近代遺産として保存するため、今年の春17年ぶりに塗装修繕が行われました。S/Lファンだけではなく、全国の方に常磐線に乗って見に来てほしい博物館です。

※常磐線(ようばんせん)は、日暮里駅から千葉県、茨城県、福島県の浜通りを経由して宮城県、の岩沼駅までを結ぶ路線。

●開館時間:9:00~16:45(入館は16:00まで)
●休館日:毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌平日)、12月29日から翌年1月3日まで ●入館料 一般300円 ●アクセス:原ノ町駅から徒歩25分程度。バス無し、タクシーで10分弱。

新潟県 小千谷市 **おぢや〜る(小千谷信濃川水力発電館)**

電車のシミュレーションが楽しめる

群馬と新潟を結ぶ上越線が通る小千谷市にある山本山。その中腹に昨年夏にオープンしたのが「おぢや〜る」。このおぢや〜るの内の小千谷信濃川水力発電館には2台の電車のシミュレーターがあります。そのうちの1台は山手線。そしてもう1台は日本でもここしかない上越線のシミュレーターです。実写モニターのシミュレーターなので、越後平野や小千谷駅など中越地方の素敵な景色を楽しめます。また、このおぢや〜るでは、巨大大段ボール迷路やアートイベント、手ぶらでキャンプなど、面白企画を開催していますので、ホームページやフェイスブックを見てみてください。

新潟県小千谷市山本1216-3 ●開館時間 9:00~18:00 水曜休館 ●入館無料(宿泊施設等は別途費用がかかります) ☎0258-82-2478 ㊟http://www.ojia-r.com/

「中央線ライダー」中央線の妖怪。たくさんの人と触れ合いたいという気持ちから中央線ライダーという誕生。普段は新宿・高尾間を行き来している。

歴史と文化・そして復興の姿を!
南相馬体験ツアー
10/14(土)~16(日)

歴史と伝統、そして新たな取り組みを続ける南相馬を訪ねる旅です。NHKドラマ「絆〜走れ奇跡の子馬」のロケ地見学や震災により作物が作られなくなった農地で、新たに取り組んでいる藍の収穫や染物体験のほか、農家民宿で地元の人たちとの交流も予定。杉並区のみなさんからいただいた支援によって復興が進んだ南相馬の現状と魅力を感じるツアーとなっています。

●内容 藍の収穫・染物、乗馬体験。秋季競馬観戦(雨天の場合は見学できない場合があります)。復興の姿と現在の取り組み紹介ほか
●参加費 20,000円(往復バス代、食費、宿泊費、体験料、保険料含む)
●定員 30名(申込順) ●申込期限 8月15日 圓杉並区交流協会 ☎5378-8833

8620
大正時代を代表する旅客用機関車(C型)。一形式で687両製造された中で、この「ハチロク」は最初に製造された栄誉ある1号機です。
◆形式:8620形蒸気機関車 ◆車号:8620 ◆製造年:1914(大正3)年

2221
日露戦争の頃、より大きな力の機関車を必要とすることから造られました。『B6』の名で呼ばれる明治後期の代表的な機関車です。
◆形式:2120形蒸気機関車 ◆車号:2221 ◆製造年:1905(明治38)年

110
鉄道記念物指定。1872年、新橋~横浜間に開業した日本で初めての鉄道に使われた10両のうち1両で、「3号機関車」と呼ばれています。
◆形式:110形蒸気機関車 ◆車号:110 ◆製造年:1871(明治4)年

22-75
1964年開業の東海道新幹線用に製造された0系の車両。0系は世界で初めて時速200kmを超えて営業運転した記念すべき車両です。
◆形式:0系22形新幹線電車 ◆車号:22-75 ◆製造年:1969(昭和44)年

E102
国鉄が最後に新製した、急勾配用の国内最大の珍しいタンク式蒸気機関車。奥羽線の板谷峠などで活躍しました。
◆形式:E10形蒸気機関車 ◆車号:E102 ◆製造年:1947(昭和22)年

クモハ40054
東京・大阪地区の通勤輸送用として、製造された電車。運転席が車両の前部(後)についているのが特徴。青梅線では戦後から1978年まで活躍。
◆形式:クモハ40形電車 ◆車号:クモハ40054 ◆製造年:1935(昭和10)年

保存版
青梅鉄道公園のおもな実物展示車両